（別紙4（2））

事業所名　グループホーム小笠

作成日：平成 27 年 12 月 10 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6・33	職員が集まり行う各種研修やカンファレンスが十分に行われておらず、各種介護技術の向上や情報共有の機会、ケアの方向性に関し統一を図ることなどに不足がある。	自主勉強会を開催し、各種介護技術や知識の習得を目指すと共に、職員が互いに切磋琢磨しながらレベルアップして行ける土壌づくりができる。	・正職を中心に、年数回の自主勉強会の実施を再開する。（テーマの決定や進行を職員に任せることで、自主性と責任感の持てるものとする。） ・事例検討を取り入れることで、ケアの振り返りと正しいケアの習得、方向性の統一を図る。	3ヶ月
2	10	会社の運営についての情報発信不足から、家族理解や信頼獲得に乏しい面がみられる。	家族対職員だけではなく、家族対会社との繋がりも強くすることで、信頼関係を強固なものにしながら、安定運営とリスク回避を図ることができる。	・介護保険制度や契約関係のお知らせ・案内以外に、大幅な人事異動を行う際にも、会社からの文書をキーパーソンに送付するようにする。 ・毎月、近況報告として送付するお便りに、行事等の写真を掲載することで、より臨場感のある内容とし家族理解を促す。	6ヶ月
3	40・52	利便性優位の反面、無機質な生活環境となってしまっている面があり、温かみや自分らしさに欠ける暮らしの場となっている。	施設ではなく、憩える”住まい”として、温かみや喜びが感じられる環境や雰囲気作りを行い、その人らしさを引き立てることができる。	・外の景観が眺められにくい構造の為、、屋内に居ても季節感やぬくもりを得られるよう、入居者と職員が一緒に寄せ植え（プランター）を行い、中庭に設置し管理していく。 ・各入居者の好みや適性に応じた湯呑みやカップを使用して頂く。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注）項目の欄については、自己評価項目の№を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。